

子どもの心の健康問題発見シート

子どもは自分の気持ちを言葉でうまく表現できず、つらさや悩みなどが表情や行動、身体症状となって現れることが多いため、心の健康問題の早期発見のためには教職員による日常の丁寧な観察が重要です。学校は、子どもが一日の大半を過ごし、集団生活をおくる場所ですから、家庭ではみえないサインがみられることがあります。授業や集団行動、友人との関係の中で、教職員だからこそ気付ける心の健康問題のサインをまとめ、心の健康問題発見シートを作成しました。

このチェックシートの活用が、子どもたちの心の健康問題の早期発見、早期対応につながるきっかけとなることを願っています。

1 「心の健康問題」発見シートの特徴

- (1) 視点を明確にもてるため、比較的短時間で子どもたちの観察をすることができます。
- (2) 共通の視点をもった複数の教職員の眼で子どもたちを観察することができます。
- (3) 場面ごとにチェックすることができるため、見落としが少なくなります。
- (4) 解説編を参考にしてサインの背景要因を推測することができます。
- (5) 学年全体や学校全体で実施することにより、教職員間で情報交換したり、相談したりすることができ、共通理解をした教職員間の連携につながります。

2 活用方法

(1) 観察の対象

すべての子どもが心の健康問題を抱えている可能性があることから全員を対象に実施する必要があります。また、単独の学級ではなく学年全体、学校全体で実施することにより、その後の連携につながりやすくなります。

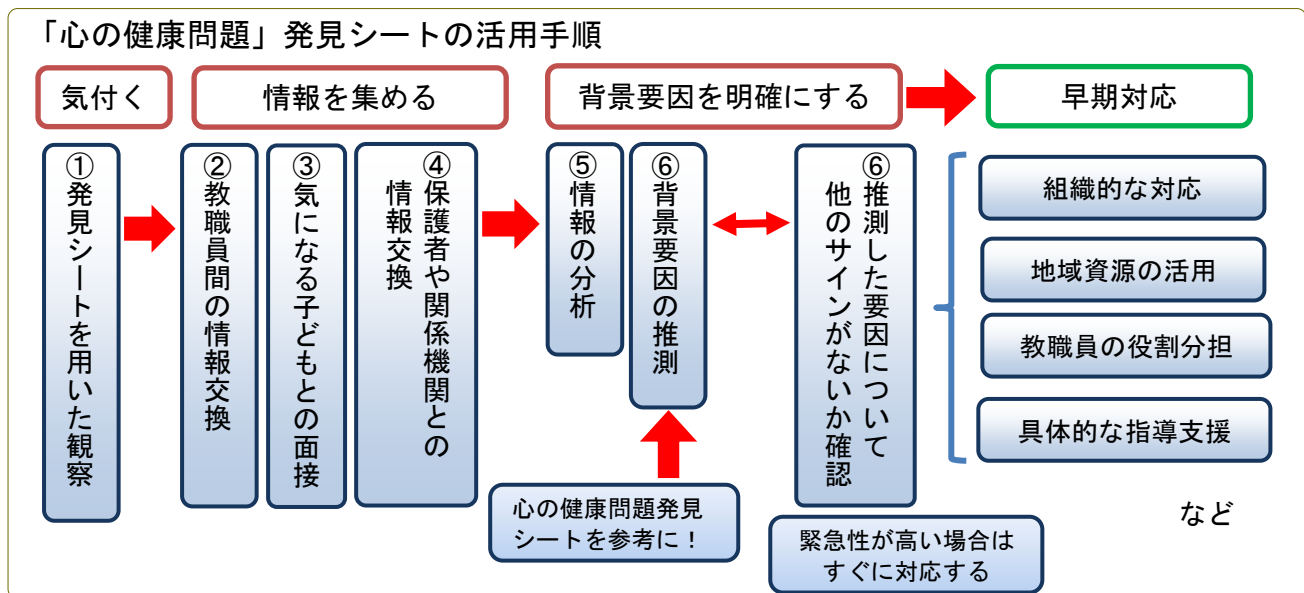
(2) 実施時期

- ① 定期的に実施することによりサインの見落としが少なくなります。学年主任を中心に学年会で実施したり、生徒指導主事や養護教諭が推進して学校全体で取り組んだりすることも有効です。アンケート実施や相談週間等と並行して実施することにより、問題に気づきやすくなります。
- ② 定期的な実施以外に、事案や災害の発生時など必要に応じて実施することより、心のケアが必要な子どもを発見することができます。

3 実施上の留意点

- (1) このシートの項目は心の健康問題のすべてを網羅した項目ではなく、万能なシートではありません。子どもの実態や学校の実情に応じた項目にするなど、組織的な取組につなげてください。
- (2) 診断するためではなく、子どもの心の健康問題を早期に発見し適切に対応するきっかけづくりとして活用してください。
- (3) 問題の背景が明確にならなくても支援の必要な子どもを発見したら、教職員・保護者・関係機関等と連携し、早期対応につなげてください。

4 実施手順



(1) 気づく

①心の健康問題発見シートを用いた子どもたちの観察（図の①）

- ・子ども一人一人の様子を思い浮かべながら項目ごとにシートに記入します。
- ・チェックの数にとらわれず、気になるサインがみられる子どもを把握してください。

(2) 情報を集める

②教職員間の情報交換（図の②）

- ・他の教職員が、子どものサインに気付いていることがあります。教職員間で情報交換してください。

③気になる子どもとの面接（図の③）

- ・気になるサインがみられる子どもと面接し丁寧に話を聴いてください。
- ・初回の面接では悩みをうまく言葉にできなかったり、話したがらなかったりすることがあるかもしれません。一回の面接ですべてを理解しようとするのではなく、回数を重ねたり、安心感を与えたりしながら子どもの気持ちを丁寧に聴きとってください。

④保護者・関係機関との情報交換（図の④）

- ・家庭での様子を知るために保護者と情報交換してください。
- ・小学校と中学校などや福祉、医療機関など関係機関との情報交換も有効です。

(3) 背景要因を明確にする

⑤情報の分析（図の⑤）

- ・集めた情報を分析し、サインが出現する共通性や傾向を把握します。

⑥背景要因の推測と推測した背景要因について他のサインがないか確認（図の⑥）

- ・気になるサインの背景要因を推測し仮説を立てます。その際必要に応じて【解説編】を参考にしてください。
- ・推測した要因について、他のサインがみられないか確認します。
例）虐待が疑われたらその子どもの服装や食事の様子、保護者との関係など他の虐待のサインがないかを確認します。

「日常の観察」と「連携による情報共有」を通して
子どもの心の健康問題を早期に発見し、対応しましょう。